

A simple illustration of a young plant. It has a central green stem with two large, rounded green leaves at the top. Above the leaves is a single blue water droplet. Below the ground line, the root system is shown in brown, with a main taproot and several smaller lateral roots. The drawing is done in a childlike, hand-drawn style.



朱丹

色々な場所で木々が色づき始めました。植木の木々、道端の木々お寺の木々、山の木々などどれもすばらしいでしょう。その時の私の気持ちでその木々のすばらしさを感じ取れるかどうかは変わってきます。今年はどこで、心が弾むかわくわくしながら楽しみにしています。

一〇月、日本東洋医学会関西支部例会で、「基準になる体とは何か」を問いかけられました。栄養バランスを目的にした食事は、いわば飼育の食事であると。人工栄養（健康食品、人工乳、インスタント食品、農薬・・・）を食している人を基準にできるのかと。神から与えられた食材を必要な量毎日摂っている人が基準ではないのかと。「健康体」とは何かを考えさせられた。

今月は、大津で滋賀県主催の日



本東洋医学会教育講演会があります。多くの医師が満足できるように、座長を務めてきます。

漢方の流派Ⅲのお話です。せせらぎ四九号、五八号、六一号、七三号も参照して下さい。日本における医学書の出版に目を向けてみたい。日本で最初の医書出版は、

一五二七年で堺の豪商で医師の阿さいの佐井野宗瑞そうずいが行った、明の熊宗立ゆうそうりつの「医書大全」です。その後、慶長年間（秀吉の朝鮮出兵）（一五九六〜一六一五年）になると、朝鮮活字版技法の強い影響を受けて古医書の刊行が増加し、医学の発達に貢献しました。寛永一六年（一六三九年）の鎖国政策、元禄時代の太平文化の開花の波が医学界にも押し寄せ、漢代の張仲景作と言われる「傷寒論しょうかんろん」を聖典とし、そこに医学の原理を求める古方派と言う学派が誕生しました。

では実例に移ります。

五十七歳女性、一五四cm、五十
八kg、**三叉神経痛**、頭痛、肩こり
腰痛、便秘、閉経にて来院。二年
前より右顔面に突然、何の誘因も
なく激痛を感じるようになった。
激痛は2〜3分程度続く。耳鼻科
皮膚科、脳外科などを受診したが
原因は不明でテグレトールを処方
されたが、次第に効かなくなった
顔は青白くむくみ、腹部は柔らく
胸脇苦満、胃内停水、両側膈傍抵
抗と圧痛。下肢に軽度浮腫を認めた
脈は沈、細、遅。舌は、淡白紅色
薄白苔、乾燥、舌下静脈軽度怒張。





そこで、四逆散、当帰芍薬散、修治附子末を処方。二ヶ月後、症状の改善が見られないため、清上蠲痛湯に変更。三ヶ月後、痛みが半減。六ヶ月後、痛みは消失して廃薬。その後、六ヶ月経過しても症状の再発はない。

二十二歳女性、一五十九cm、四十一kg、**無月経**、食欲不振、全身倦怠感、鬱病（抗鬱剤、睡眠剤服用中）にて来院。顔は血色が悪く、胸脇苦満、胃内停水、臍上悸（十）、上下腹部膨満、両側臍傍に軽度圧痛を認めた。脈は沈、細、弱、遅。舌は、淡暗紫赤色、乾燥、無苔、瘀斑（黒い斑点多数）、舌下静脈軽度怒張。そこで、十全大補湯を処方。三ヶ月後、倦怠感減少したが、胃部膨満を自覚。芍婦調血飲第一加減に変更。一年後も無月経。そこで、十全大補湯と芍婦調血飲第一加減を交互に処方。二年後、出血が三ヶ月毎に出現。三年後、排卵誘発剤にて排卵を認めた。現在、続服中。

三〇歳女性、**子宮内膜症**（二年前、左卵巢チョコレート嚢胞切除、両側仙骨子宮韧带切断、ダグラス窩ブルーベリースポット焼灼）、腰痛、



〔院長〕

月経痛、月経前浮腫、手足の冷えを訴えて来院。お腹に緊張が強く、胸脇苦満、心下痞硬、両側腹直筋緊張、臍上悸、両側臍傍の抵抗と圧痛、脈は浮弦。そこで、柴胡桂枝湯、当帰芍薬散を処方。三ヶ月後より症状が改善し始めた。現在、二年後も継続中。

三〇歳女性、一六十七cm、七十二kg、**頭痛**、血圧一二一／六〇、頻尿、便秘（三日に一回）、月経過多、月経痛を訴えて来院。顔はむくみ、両頬紅潮。腹は硬く、弾力性がある。心下痞硬、胸脇苦満、右側臍傍抵抗と圧痛、下腹部は膨満。脈は浮弦。舌は深紅色、薄白苔、舌尖紅。他院でCTに異常なし。イミグラン、クリアミン、五苓散など無効。一月に四、十五回の頭痛発作。疲れると発作、天候や月経に無関係。そこで、柴苓湯、防風通聖散、防己黃耆湯を処方。二週間後より頭痛発作が減り、一年後、二ヶ月で一、二回に減少。二年後の現在も継続中。

今回は**糖尿**病 Ⅰです。



三 叉 神 経 痛

突発する激しい顔面の一側性の痛みで、疼痛発作が反復し出現します。この痛みは、会話、食事、洗顔、化粧などにより誘発されます。原因は、微小血管による三叉神経の圧迫です。疼痛は2～10秒のことが多く、やや女性に多いようです。腫瘍や感染や外傷が原因のこともあります。治療は内服薬（西洋薬や漢方薬）ですが、無効の場合、神経ブロックや微小血管減圧術でようなることもあります。



無 月 経

原発性無月経（出生後生理がない）では、子宮、卵巣、膣の発育不全、視床下部や脳下垂体の機能不全が疑われ、遺伝疾患（染色体異常）を認めることも多く、低身長、多毛、翼状頸などの異常が見られることもある。続発性無月経（途中で生理がなくなった）は、精神的・身体的ストレス、ダイエット、急激な体重増加などが原因で、乳汁分泌、多毛、咽声などの男性化徴候を伴うこともあります。長い間、月経がないと、骨密度の低下や高脂血症が起こりやすくなります。血液検査（ホルモン、脂質など）、骨量測定、超音波検査などが必要です。



頭 痛

頭痛には、脳出血、脳梗塞、髄膜炎、脳腫瘍、緑内障など緊急性を有するものがあり、CTスキャンや髄液検査が必要です。しかし、大部分は慢性頭痛で、後頭部や前頭部が締め付けられ、頸部筋緊張、視力障害を伴い、心理的社会的ストレスが誘因となる緊張性頭痛と拍動性、片側性、片麻痺、視野障害を伴い、ストレスや食品（チラミス）が原因の片頭痛があります。また、激痛が頭を突き刺すような群発頭痛もあります。



当院の漢方治療



剤型

- ・エキス漢方薬：錠剤**タイプ**の漢方薬と顆粒**タイプ**の漢方薬があります。
- ・漢方煎じ薬：良質の生薬を組み合わせた漢方薬。**40～60分煮**で作ります。
当院の**顆粒タイプ**の漢方薬は、胃になじみやすい反面、湿気に弱いので、乾燥剤の入った容器に入れ、しっかり蓋をして下さい。それでも固まる場合、**冷蔵庫(冷凍庫)**で保管して下さい。
漢方薬が固まりやすい場合、当院の**漢方薬専用容器** (無料) をご利用下さい。

適応症

- 便秘、頭痛、肩こり、腰痛、食欲不振、疲れ、冷え、むくみ、痛み、痺れ、動悸、めまい、ほてり、発熱、かゆみ、排尿障害・・・などすべての症状。
- ・漢方薬のよく効く疾患
アトピー性皮膚炎、更年期障害、便秘、腰痛、肩こり、子宮内膜症、子宮筋腫、生理痛、冷え性、不妊症、低血圧、めまい、頭痛、過労、過敏性大腸、慢性疲労、風邪、肥満、夏ばて、慢性肝炎、肝硬変、慢性胃炎、慢性膀胱炎、慢性胆嚢炎、胆石、胃十二指腸潰瘍、痛風、慢性膀胱炎、血尿、前立腺肥大、蕁麻疹、接触性皮膚炎、にきび、慢性中耳炎、慢性扁桃腺炎、慢性副鼻腔炎、口内炎、口腔乾燥、虚弱児、切迫流産、妊娠中毒症、産後回復不全、乳腺炎、乳汁分泌不全、乳腺症、上下肢浮腫、膝関節症、神経痛、帯状疱疹後神経痛、下肢静脈瘤、クーラー病・・・
- ・漢方薬と西洋薬を併用することの多い疾患
高血圧、高脂血症、高コレステロール血症、アレルギー性鼻炎、不眠症、自律神経失調症、うつ病、骨粗鬆症、糖尿病、慢性関節リウマチ、痔、肝硬変、喘息、腎炎、甲状腺疾患、夜尿症、脳梗塞後遺症、脳出血後遺症、抗癌剤使用後倦怠感、抗癌剤使用時副作用・・・

エキス漢方薬と漢方煎じ薬

- ・軽症 ・ 中程度の病氣：漢方製剤（顆粒あるいは錠剤）を組み合わせで治療。
- ・重症の病氣、エキス剤が無効：漢方煎じ薬で治療。

女性の方、男性の方、お子様、高齢の方、ご相談下さい。

問診、望診(舌診)、聞診、切診(腹診と脈診)の東洋医学的診察法(四診)や検査(超音波、血液、便、尿、痰、膣分泌物、心電図、骨量測定・・・)などを利用して、漢方薬を決めます。

骨量測定(4～6ヶ月ごと)

1分で測定(極少量のX線吸収を利用)。結果は、直ぐにお渡しします。骨破壊度の検査(尿)も実施しています。

予約ー漢方外来

土曜日の午後、予約-漢方外来があります(予約制、2回/月)。
日程は掲示板やホームページでご確認ください。
(電話予約可)

アトピー軟膏 健康食品

漢方薬(生薬)のみで作られた軟膏です。

- ・紫雲膏 ・ 太乙膏 ・ アガリクス
- ・メシマコブ ・ 靈芝 ・ AHC C ・ サメ軟骨

漢方入浴剤

- ・美芳湯：冷え症、湿疹、あせも、にきび・・・
- ・昇竜湯：腰痛、肩こり、神経痛、疲労回復・・・
- ・アトピーの方の漢方入浴剤もお作りします。

健康保険証の確認

保険証は**毎月確認**することになっています。
保険が使えなくなると困りますから、**保険証の変更**は、早急に受付に連絡して下さい。

在宅療養の支援とは

患者さんあるいはその家族の人と相談のうえ、その家族を訪問し、**計画的に診療と治療**を行います。
往診と違い、**定期的に(月に2～12回)訪問診療**を行い、患者さんの健康を管理します。
在宅療養の支援についてお気軽にご相談下さい。

スーパーライザー(神経照射)

赤い温かい光(近赤外線)で血行をよくし、腰痛、肩こり、五十肩、膝の痛み、ムチウチ、捻挫、花粉症、アトピー性皮膚炎、ストレス・・・などの治療に利用しています。

皮内針、針管付き鍼

皮内針の長さは1～2mm、針管付き鍼の長さは30mm、いずれの鍼も刺す時の痛みはありません。肩こり、腰痛、膝関節痛、足の痛、筋肉痛、頭痛・・・の治療に適しています。

処置診(処置、検査、点滴、鍼、スーパーライザー)

診察券を入れ**受診者名簿**に、**氏名**を書き、**処置の欄**にチェックして下さい。

外 来 診 療 時 間

	月	火	水	木	金	土	日
午前9:00～正午	○	○	○	○	○	○	—
正午～午後0時30分	—	—	産後健診(予約可)	—	産後健診(予約可)	—	—
午後2:00～午後3:30	産後相談(予約)(有料) 母乳相談(予約)(有料)	産後相談(予約)(有料) 母乳相談(予約)(有料)	産後相談(予約)(有料) 母乳相談(予約)(有料)	産後相談(予約)(有料) 母乳相談(予約)(有料)	産後相談(予約)(有料) 母乳相談(予約)(有料)	予約-漢方外来 (月2回)	—
午後2:00～午後4:00	在宅訪問診療 (手術)		在宅訪問診療 (手術)		在宅訪問診療	—	—
午後5:30～午後7:30	○	—	○	—	○	—	—

◇漢方外来(月～土):内科、小児科、皮膚科、産婦人科、整形外科、耳鼻科、眼科など全科の漢方薬による治療。
 ◇予約-漢方外来(2回/月 土曜日):午後2時～2時20分、2時20分～40分、2時40分～3時、3時～20分、3時20分～40分
 3時40分～4時 (電話予約可、日程はホームページ、掲示板参照)

◇更年期外来(月～土曜日):更年期の方、思春期の方(女性、男性 どなたでもお越し下さい)

◇不妊 外来(月～土曜日):赤ちゃんの欲しい方(ご夫婦でもお越しになれます)

◇妊婦 外来(月～土曜日):妊婦健診、妊娠中の方

◇産後 健診(水、金曜日)(有料):正午～午後0時30分 赤ちゃん健診(1ヶ月、2ヶ月、3ヶ月)も(電話予約可)

◇産後 相談(月～金曜日)(有料):午後2時～30分、2時30分～3時、3時～30分 産後の悩み (電話予約可)

◇母乳 相談(月～金曜日)(有料):午後2時～30分、2時30分～3時、3時～30分 乳房マッサージ (電話予約可)

前期と中期-母親教室

日時:平成20年11月8日、12月6日、平成21年

1月10日の各土曜日

対象:妊娠7ヶ月までの方(定員7名位)(無料)

場所:当院別棟 多目的ルーム 申込方法:申込ノートでご予約をお願いします。*ご主人様もお気軽にご参加下さい。
 立会い分娩ご希望の方は 特にご参加をお勧めします。(申し込みノートにお名前の記入をお願いします)

後 期 - 母 親 教 室

日時:平成20年11月5日(水)、15日(土)26(水)

12月10日(水)、20日(土)、平成21年1月7日(水)

対象:妊娠8～10ヶ月までの方(定員7名位)(無料)

母親教室のお知らせ

母親教室では、“母と子のてびき”にそって、お話をすすめています。参加時には

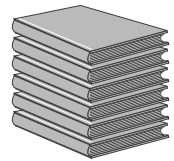
母子手帳とともに、忘れずにお持ち下さい。

(“母と子のてびき”は、分娩予約時に受付でお渡ししています。)



田代三喜(たしろさんき)

田代三喜は1465年、埼玉県越生町で生まれ、足利学校で医学教育を受けた。1487年、明に渡り、僧医月湖の師事し、当時の李朱医学(李東垣、朱丹溪)を学んで、1498年、月湖の著した「全九集」「済陰方」など多くの医書を持ち帰った。足利成氏(古河公方)により侍医になり、また、多くの庶民に医療を行い医聖と仰がれた。1531年より、曲直瀬道三を指導し、よき後継者とした。道三によって李朱医学が広められた。



分娩予約

妊娠30週までに受付で予約して下さい。ご予約には、**分娩予約カードと予約金10万円**が必要です。予約された方には、**母と子のてびき**をお渡しします。

漢方のお茶

〔清暑益気湯(せいしょえきとう)加減〕

疲労回復にもってこいのお茶です。ちょっと疲れ気味の方はお試しください。妊娠中の方もお飲みください。

パソコンホームページ(<http://www.ukita.gr.jp/>)

トップページ(お知らせの欄、診療日程カレンダー)
 産婦人科のページ(入院、食事、各種教室、指導)
 漢方治療のページ(外来、漢方治療の範囲)
 老人医療のページ(在宅療養の支援)
 健康のページ(健診、プライマルチェック、予防接種)
 当院の施設案内、当院への交通(車、J R)

産後相談 母乳相談 (助産師)

産後相談(有料)、母乳相談(有料)(乳房マッサージ)をしています。午後2時～2時30分、2時30分～3時、3時～3時30分。日程は掲示板やホームページでお確かめください。(電話予約可)

正常分娩の入院日数

正常分娩の場合入院日を含めて入院期間は6日間です。初産婦の方、経産婦の方も同じ入院日数です。分娩希望の方はすべて受け付けています。

里帰り出産を予定されている方へ

当院は里帰り出産を受け付けています。妊娠24週ころ(母体と赤ちゃんの状態をチェックします)に1度診察においてください。当院での妊婦健診は妊娠34週から受けてください。

産後健診と赤ちゃん健診

産後健診と1ヶ月、2ヶ月、3ヶ月健診をしています。日時:毎週水、金曜日 正午～午後0時30分(有料)

入院食(手作り)

心のこもった手作り料理です。素材、味付け、メニュー…など、絶えず工夫研究しています。

産科医療補償制度

分娩により重度の脳性麻痺となった児及びその家族の経済的負担を補償し、原因分析と再発防止策を講ずるための制度。当院でお産される方に、10月より登録証を発行する予定です(妊娠5ヶ月ころ)。詳細は受付でお聞きください。